

平成 29 年度高校生キュレータークラブの活動報告

2/10 で今年度の活動を終わりました。今年度は宮原高校 1 年生 3 人、呉高専 3 年生 4 人の 7 人で活動しました。昨年 6 月から約半年、1 月開催の特別展にむけて講座や研究会を 12 回開き、その学習成果は「開館 35 周年記念 呉市立美術館のあゆみ展」(1/6-2/12) で発表しました。

活動を終えての感想の中からいくつかを抜粋して、活動を報告します。来年度の参加について参考にしてください。

私は美術が好きですが、観るより描く方が好きなので想像していたより自分にはキツイ仕事だなと思いました。でも作品をじっくり観るという経験は自分の美術の活動に生かすことができる気がします。この作品の何がすごかったのか、何を思って描いたのかという背景を知ることによって、自分が描く作品に対して前よりも向き合うことができたような気がします。

「忠実に絵を描く」というだけでは足りない「何か」を、この活動で見つけられた気がします。



私たちの目標だった、呉を美術の目線から知っていくことも、作家略歴をまとめたり実際の展覧会に参加できたことで達成できました。

作家略歴は、故人の事を正確に、わかりやすくまとめ、文章量の制限もあり、一文一文吟味して書くことが難しかったです。でも作品解説の時、多くの方に聞いていただきとても嬉しかったです。



作品解説の時、原稿を読むのではなく、自分が選んだ作品の良さを伝えられるように、自分の言葉で発表するように心がけました。

解説を聞いてくださっていた方々の中には「うん、うん」と頷かれていた方もいて、ちゃんと伝わった気がして嬉しかったです。

広島県内の作家について知ることができたのはとても良い経験になったと思います。「広島にはこんなにもすばらしい作家いるのか」という感動を覚えました。自分で作家について調べていくと益々その作家が好きになりました。作品解説の文章を書くのは大変時間のかかる作業で、悩みながら取り組みました。文章ができ上がったときは大きな達成感を得ることができました。